



インスピレーションになる

- 《第2530地区活動目標》
1. 会員基礎の維持と強化
 2. POLの推進への取り組みと支援
 3. TAKE ACTION - みんなで行動を起こしましょう
 4. RI戦略計画と中核的価値観の理解と実践
 5. 公共イメージの向上
 6. 全クラブでロータリー賞に挑戦しよう
 7. 研修制度の充実
 8. ロータリー財団への理解と活用
 9. 米山記念奨学会への協力

WEEKLY REPORT OF IIZAKA ROTARY CLUB, DIST. 2530 広報委員会作成

飯坂ロータリークラブ 週報

創立 昭和33年(1958)5月5日
 ガバナー 平井義郎
 ガバナー補佐 渡邊武
 会長 吾妻一夫
 幹事 村上裕司

三月は水と衛生月間

2018~2019年度 ◆例会日/木曜日12:30 ◆例会場/かむろみの郷 穴原温泉 匠のこころ 吉川屋
 RI会長 バリー・ラシン 事務局/〒960-0282 福島市飯坂町湯野字新湯6 (吉川屋内) ☎(024)542-2226 Fax(024)542-3604
 イー・ストナッソー・ロータリークラブ(バハマ)

通算

3月13日を含む一週間「世界ローターアクト週間」

第33回 [2954] 例会報告 平成31年(2019)3月14日(木)

出席委員会報告

会員総数	39名
出席会員	25名
欠席会員	14名
出席率	64.10%

言行はこれに照らしてから

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか

- ◆開会点鐘 吾妻一夫 会長
- ◆ロータリーソング [我らの生業] 渡辺達也 会員
- ◆四つのテストの唱和 斎藤孝裕 職業奉仕委員長
- ◆お客様紹介 福島市観光コンベンション協会 事務局長 吉田秀政 様
 *2018(平成30年)学年RI米山記念奨学生 レー クアン ダット さん

今週の誕生日 3月24日 斎藤孝裕 会員

lunch time

◆会長あいさつ

3月8日の私個人の祝賀会では皆様大変お世話になりました。また、3月9日の新会員オリエンテーションでは皆様のご協力の下につがなく終了する事ができました。本当にありがとうございます。私の大役も68%くらいは完了したかなと思っております。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。先だってお亡くなりになった鈴木義治さんの奥様からお手紙をいただいておりますので後で回覧いたします。今回の行事を通して痛感した事は、ロータリーは友情と心の触れ合い、目配り一つで皆様に動いていただき、皆様の職務を全うしようとする気持ちを今回のオリエンテーションを通して感じました。皆様と協力しながら飯坂ロータリークラブはさすがだと言われるように努力して参りたいと思っております。宜しくお願いいたします。



お賅別の贈呈



【牧浦史幸会員】 2年間、大変お世話になりました。魅力的な先輩方に囲まれて幸せな2年間を送る事ができました。色々な思い出がありましたが、60周年の節目に飯坂ロータリークラブ会員として、その場に立ち会えたというのは私にとっても栄誉な事ですし、当日は撮影係でしたが、こういった素晴らしい冊子に自分の撮った写真が残せたというのは本当に皆様のご協力のおかげだと深く感謝しております。本当に2年間ありがとうございました。

【永井秀典新会員】 初めまして、永井と申します。この度、新会員として飯坂ロータリークラブ様の方にお世話になります。宜しくお願いします。出身は平野ですが、飯坂支局赴任をきっかけに飯坂ロータリークラブ様をはじめ、地域の事をPRしていきたいと思っておりますので、皆様どうか宜しくお願いします。お世話になります。



パッチの贈呈

奨学金の贈呈



【レー クアン ダット君】 飯坂ロータリークラブに入ってもう1年になります。奨学生になり皆様と出会った事は私にとって人生の宝です。この1年間で、研修旅行や例会を通して自分のコミュニケーション能力と精神面を成長させる事ができました。ありがとうございました。今年の大きな目標は、自分があと一歩踏み出せるように研究や就職活動を頑張りたいと思っております。皆様、どうぞよろしく願います。

◆幹事報告 村上裕司 幹事

A. 月信 「ガバナー月信」 No.9 3月号

B. 来信

- ①ガバナー 平井義郎 氏より
「職業奉仕委員会セミナーの案内」
とき、4月20日(土)
ところ、ユラックス熱海
- ②ガバナーエレクト 芳賀 裕 氏より
「2019-20年度地区委員任命及び地区名簿作成について」
- ③県北第二分区分区ガバナー補佐 渡邊 武 氏より
「県北第二分区分区次期幹事セミナーの案内」
とき、4月26日(金)
ところ、セルビアスカイパレス (保原町)
「県北第二分区分区合同親睦チャリティゴルフ大会の案内」
とき、4月14日(日)
ところ、パーシモンカントリークラブ

◆創立60周年記念誌発刊にあたり 小笠原尚史 委員長

大変遅くなって申し訳ないの一言であります。昨年、60周年事業を行いまして、昨年度中に記念誌も完成すればよかったのですが、なにぶん不慣れな私が委員長を仰せつかり、また、限られた予算で色々な方々からもご要望がありまして完成まで時間がかかりました。これも私の力不



足だと思っております。また、新会員の皆様には歴史ある飯坂ロータリークラブをこれを見るとある程度分かるのではないかと思っております。今後も70周年80周年をみんなで祝えるように頑張ってお参りたいと思っております。

◆スマイリングBOX 中島定宏 副委員長 【合計3-54】

吾妻 一夫 会員 2 J	3月8日の祝賀会では大変お世話になりました。又、お花などありがとうございました。	西條 博之 会員 S	たび重なる遅刻について
村上 裕司 会員 H	先日の新会員セミナーのご協力ありがとうございました。本日のゲストスピーチ吉田様宜しくお願いします。	佐藤 真也 会員 T	ゲストに吉田秀政様をお迎えして
中島 定宏 会員 H	三男純也が保原高校合格しました。	篠木 勝司 会員 T	早退おわび
牧浦 史幸 会員 H	3/9 ほうりん平野斎場を開設して10年が過ぎました。これも一重に皆様方のご声援の賜物と感謝しております。		
高田 薫 会員 S	2年間大変お世話になりました。		
安齋 忠作 会員 S	新会員オリエンテーションありがとうございました。		
中野 哲郎 会員 T	吉田様をお迎えして		
鈴木 牧子 会員 T	妻の誕生日にお花を戴いて		
	ゲストに吉田様をお迎えして		

◆ゲストスピーチ 福島市観光コンベンション協会 事務局長 吉田秀政 様 [紹介者：安齋忠作会員]



飯坂ロータリークラブのロータリアンの皆様、こんにちは。今日のテーマですが「未来創生 これからの地域力を生き抜くために必要な知識と考え方について」ということで、どこもかしこも、東京以外は人が減って“どうしよう”ということが日本全国を覆っております。しかし、よく見てみますと何とか生き残れそうな所と難しいなという所が段々色分けされてきております。どういう所がポイントなのか端的にお話しさせていただきたいと思います。本日お話する内容はこの2点です。「少し先の未来を見ましょう」これから先気を付けていかなければならない未来を皆様と考えてみるということ、「現実を踏まえる」というところをお話しさせていただきます。実は観光のスペシャリストだと勘違いされますが、私は未来創りのスペシャリストです。観光はその一つの手段に過ぎません。

復興庁、復興財源も含めて来年10年目を迎え、復興庁の解体終了が決まっております。その先は独立独歩で様々な事をやっていかなくてはなりません。復興財源も右肩下がりでどんどん縮小しています。お金がある時は色々な企業やコンサルタントがいっぱい入ってきますが、お金の切れ目が縁の切れ目という所を全国で多く見て来ました。私は東日本大震災で思うところがあり、思いを持っていく人間が必要なのではないかと思います、“男は勝負せないかん時がある”ということで来させていただきました。

京都大学と日立が人口知能でシュミレーションしました。これから先この国はどうなるか、2パターンに分かれる事がわかりました。「大都市に集中していく」「地方分散で留まる」というパターンになりました。そのために「ローカルハブ」という考え方と「メガリージョン」という考え方を両立で今政策を打っております。「ローカルハブ」のハブとは、自転車のタイヤの真ん中のハブという意味です。まさに福島市はこのハブと言えます。経済的動態的に真ん中になる地方創生がこれです。「メガリージョン」とは超広域経済圏、世界とどれだけ戦える地域を広げられるかということです。成長可能性都市から言うとも仙台はランキングから漏れています。仙台を目標に真似をしようという時代はもう終わっております。大都市圏を帯で繋ぐというのがメガリージョンの考え方です。今、政府が特に力を入れているのが、東京、名古屋、大阪をリアモーターカーで繋ぎ、これを一つの「スーパーメガリージョン」として、ここから溢れたお金を地方に回そうということです。そこから考えると成長可能都市との関連は、例えば福岡は自前で海を越えて韓国と共にスーパーメガリージョンを行っております。九州圏を全て巻き込もうと福岡ではFDC(福岡地域戦略新進協議会)という組織があるのです。そういう構想に東北自体が外れているということを皆さんに認識していただきたいと思っております。政府が地方創生を進める背景と理由ですが、被災3県以外の地町村には「頑張る所だけ融資します。自己満足だけでは協力できません」とはっきり首長が政府から言われております。復興庁が解体されれば、浜通りは別として、中通りや会津にもこの地方創生の荒波に揉まれるのではないかと思います。10年後には、この期間をバッチバッチ戦ってきた地域といきなり戦わなければなりません。今まさに地方自治体の護送船団方式が終了しつつあります。その時には国内メガリージョンや海外との関係性においてポジションと役割を明確にした広域経済圏に移行する可能性が大であり、まさにこれからの時代はI o Tと言われる一気に加速していく産業革命以上の経済革命がこの10年以内に起きると相まって、海図無き船で超荒波に出航していくようなもので、住民の皆様と共に未来図、理念、根拠、理論を考えて共有して実践する事がとても大事で、この事が西高東低であると申し上げたいと思っております。総力戦で生き残ろうという発想が違います。復興財源も含めて、もはや上からは降ってきません。特需的予算が切れたら漂流する可能性が大なのです。

飯坂の場合は、観光や観光農園を含め、お客様に来ていただくということがかなりウェイトを占めております。その中で今のお話を踏まえてどうするか。関係人口という考え方をお持ちいただくと良いと思っております。人口は統計上減ります。出ていく事を止められません。今までの人口を増やすという考え方ではもはや通用しません。だとすれば、通勤で来る人やビジネスで来る人、修学旅行やボランティア、短期移住者、長期移住者、これが現在縦割り考えられております。実は関係人口は来てくれた方をいかに関係を深く戦略的にしていくかという話です。局面局面で同じ理念と戦略を持って、この関係性を構築して地域の力に変えていくかという戦略的な考え方がこの関係人口ということになります。私は8年前からこの関係人口について成果を出しております。全て戦略的につなげて、「興味を引くということ」「調べていただくということ」「消費や投資をしていただくということ」、最後に「住んでいただく」ということを全て一連の戦略で行う事が関係人口拡大の戦略的なやり方です。最後に、過疎化の真の怖さは誇りの喪失と無関心です。環境の変化に適応して変わっていく事のできる地域は人々の成長の可能性が高く、生き残れる可能性も高いと感じます。現在は西高東低です。東北でも頑張っていけるということを示して、皆様と未来に向けて色々な事をさせていただきたいと思っております。今後も観光コンベンション協会との連携、あるいはご指導を宜しくお願いいたします。ありがとうございました。

◆閉会点鐘 会長